

潮路小学校の研究

1 研究主題

【目指す子ども像】

自ら学習を進め、友達と学び合い表現力を高めることで
確かな学力を身につける子



自ら進んで学び、ともに高め合う子どもの育成
～複式学級の特性を生かした算数科授業の構築～
(3年計画の2年次)

“自ら進んで学ぶ”とは、

- 学習（既習事項や方法）を生かし
- 自ら進んで学習に向かい
- 意欲的、創造的に学ぶ

“ともに高め合う”とは、

- 自分の学びをもとに
- 他者とのかかわりから
- 学習に深まりを生む

2 主題設定の理由

- ・昨年度から完全複式が始まる
- ・今後も児童数の減少が見込まれる
- ・複式が続き、学級編成や担任が毎年変わる



おもしろスタイルの構築

～担任や学級が変わっても、子供たちが学習の流れを把握し主体的に学習を進め、学び合いを通して互いを高め合いながら生き生きと学び、一人ひとりに確かな学力を身につけさせることを目指し、研究主題を設定した。

3 研究仮説

《仮説1》 学びを充実させる学習指導

日常での学び方を意図的・計画的に指導することで、児童は見通しをもって学習に取り組み、主体的に学び、考えることができる。

《仮説2》 交流のあり方

育てたい力やねらいを明確にした上で、交流の場面を設定することで、ともに学び合うことができる。

4 仮説検証の視点

《仮説1に関して》

昨年度は…

- ①目的意識を持たせる課題の設定
- ②ゴールの見える学習過程の工夫
- ③学習過程の構築 **重点**
- ④明確な指示による間接指導



今年度の重点は…

- ①おもしろスタイルの定着
(学習規律、学習過程、学習リーダー進め方シート等の定着と修正)
- ②明確な指示による間接指導時の学習の充実
(ホワイトボードによる指示、算数用語の活用、手がかりの提示)
- ③単位時間における学習過程の工夫
(つかむ・考える・ひろげる・まとめる・たしかめるの5段階)
※「ふりかえる」を入れた6段階へ向けて

《仮説2に関して》

昨年度は…

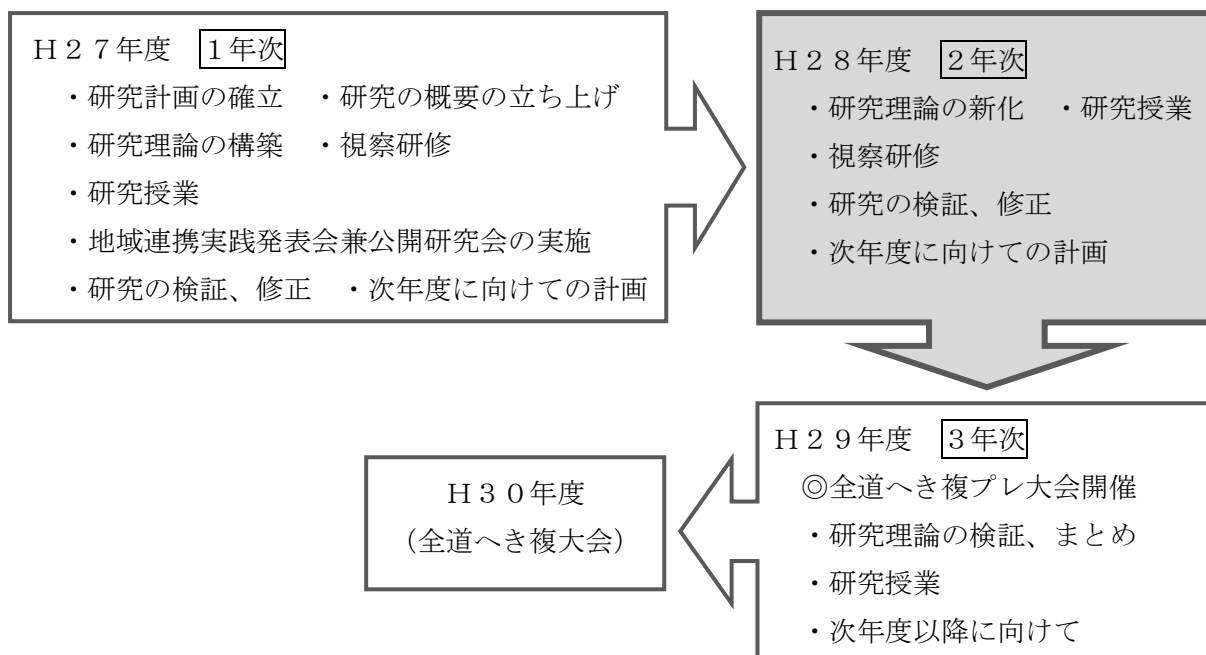
- ①一人ひとりの学びの把握と教師の関わり
- ②交流の意図の明確化
- ③交流の形態
- ④交流の場の設定
- ⑤交流のあり方 **重点**
- ⑥友達のよさを認める場面の設定 **重点**



今年度の重点は…

- ①発達段階に応じた交流
(意図、形態、目指す姿を明確にした交流)
- ②学年の人数に応じた交流 (形態)

5 研究計画



6 年間計画

月	日	研究内容	研修内容
	14	研修日①	今年度の研修について 今年度の重点の決定
5	12	研修日②	研究内容・指導案について
	26	研修日③	視聴覚研修 (iPadのアプリについて)
6	2	研修日④	実技研修 (レクリエーション)
	23	研修日⑤	研究授業1 (3・4年) 指導案検討
7	21	研修日⑥	研究授業1 (3・4年) 事後研
8	18	研修日⑦	研究授業2 (1・2年) 指導案検討
	25	研修日⑧	研究授業2 (1・2年) 事後研
9	1	研修日⑨	前期研修のまとめ
	8	研修日⑩	研究授業3 (はまなす) 指導案検討
10	6	研修日⑪	研究授業3 (はまなす) 事後研
	27	研修日⑫	研究授業4 (5・6年) 指導案検討
11	24	研修日⑬	研究授業4 (5・6年) 事後研 ※指導主事訪問
12	1	研修日⑭	研究授業5 (かしわ) 指導案検討
	8	研修日⑮	研究授業5 (かしわ) 事後研
	22	研修日⑯	特別支援研修
1	26	研修日⑰	研修のまとめ
2	2	研修日⑱	次年度に向けて
3	末		研究集録発刊